



学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～

令和4年 6月 30日 7・8月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 黒木 健

ひびきあって笑顔かがやく

副校長 山田 克志

蝉の声が聞こえ始め夏本番を迎えましたが、本校保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、今月の学校だよりは、「ひびきあって笑顔かがやく」と題して、副校長の私から話をさせていただきます。

今年3月に斎藤分小学校転任が内定してすぐに学校のホームページを見ました。そこに載っていた学校教育目標「ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」を見て驚きました。当時在任していた学校の教育目標にも「ひびきあう」の言葉が盛り込まれていたからです。大げさかもしれませんが縁というか運命を感じました。何か見えない力に導かれて異動が決まったのかなと思いました。

着任してすぐに新年度準備のために登校した6年生と会いました。まず嬉しく思ったのが子どもたちが目を見て挨拶してくれることです。礼儀正しくて、友達や先生の話聞く態度が立派でした。翌日から登校し始めた他学年の子どもたちも元気で素直で笑顔が素敵でした。改めて斎藤分小学校に着任できたことに感謝すると同時に、これから子どもたちのために精一杯努力しようと思えました。

今年度も、様々な教育活動が新型コロナウイルス感染状況の影響を受けることが予想されます。しかし、子どもたちはこのような状況の中でも、健気に懸命に学習に取り組んでいます。子どもたちには楽しいことを見つけたり生み出したりする力があります。今日までの活動の中でもたくさんの笑顔を見つけることができました。普段の授業の中で、1年生を迎える会の中で、ふれあいタイムやふれあい全校遠足の中で、新体力テストの中で、体育集会や音楽朝会の中で、宿泊体験学習の中で、校外学習やまちたんけんの中で、もちろん休み時間の中でも、笑顔が溢れていました。そして輝いていました。私たち教職員は、子どもたちの笑顔に励まされています。これからも、子どもたちの笑顔が溢れ輝く学校をつくっていきます。

さて、学校教育目標「ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」についてですが、私が考えていることを話させていただきます。「ひびきあう」とは、異なる音階の音が調和したときに生まれる美しい「響き」のように、互いに異なる個性をもつ人と人とが出会い、互いの良さを認めて関わり合い高め合う関係を指していると思います。美しい響きが互いの声をよく聴くことから生まれるように、高め合う関係も、周りの人の声や話・考え・想いなどに心から耳を傾けることで実現できます。学校教育目標「ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」には、本校のあらゆる教育活動でこのような人間関係を築きたいという願いがこもっていると捉えています。学校では、子ども同士はもちろん、子どもたちと教職員もひびきあい、保護者と教職員もひびきあい、学校と地域もひびきあう、そのような関係性を築いていきたいと思っています。